

病害虫発生予察指導情報

(ナシ・ニセナシサビダニ No. 4)

平成29年6月16日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

6月中旬現在、ニセナシサビダニの発生量は平年と比較してやや少ない。

2. 情報の根拠

- (1) 6月上旬の平均気温は低く、ニセナシサビダニの増殖は緩慢であった。
- (2) 6月中旬現在、県予察ほ場におけるニセナシサビダニの葉あたり個体数は693.8頭(平年: 1072.7頭)で、発生量は平年と比較してやや少ない(表1)。
- (3) 向こう1か月の気象予報から、発生盛期は平年並の6月下旬頃と見込まれる。

表1 ニセナシサビダニの発生活消長(園芸試験場)

月・旬	本年	平年
5・上	3.2	1.1
5・中	28.8	5.5
5・下	166.8	43.6
6・上	340.8	370.0
6・中	693.8	1,072.7
6・下		1,249.2

注) 殺ダニ剤無散布ほ場, 1葉あたり寄生個体数(3樹10葉調査)

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 密度増殖が著しい種(ハダニ類、サビダニ類など)は、発生初期の防除(初期密度の低い時点での防除)が重要である。また、ニセナシサビダニ被害の多少は新梢停止期の早晩の影響が大きい。
- (2) 第2回目の防除時期は、6月中旬頃を目安とする。薬剤はハチハチフロアブル2, 000倍液などを使用し、本種が寄生している新梢先端部に薬液が十分付着するように散布する。

(参考)

慣行防除区(5月下旬・6月中旬に本種を対象に殺虫剤を散布する区)におけるニセナシサビダニの発生活消長

表 ニセナシサビダニの発生活消長(園芸試験場)

月・旬	本年	前年
6・上	0	0.2
6・中	6.0	8.0
6・下		10.8

注) 1葉あたり寄生個体数(3樹10葉調査)

6月中旬は薬剤散布前の密度

要約: 6月中旬現在、慣行防除区におけるニセナシサビダニの発生密度は低い。